

年・頭・所・感

基本はコミュニケーションから

明けましておめでとうございます。

昨年は大村智・北里大学特別栄誉教授、梶田隆章・東京大学宇宙線研究所所長のお二人がノーベル賞を受賞し、日本人は前年に続き 2 年連続の受賞となり、科学技術立国日本として面目躍如たる思いを感じました。

安倍総理は「官民対話」(2015.11.26)で住宅の省エネを促進し、H28 年度からトップランナー制度を白熱球に適用すると発言しました。つまり、近い将来照明は一般的には LED 照明がほとんどとなり、省エネ・長寿命に劣る白熱球や蛍光灯が姿を消していく可能性があります。これは一昨年ノーベル賞を受賞した青色発光ダイオード技術の発明・量産・普及の影響と言えます。

この先も科学技術の進歩によって様々な課題が少しずつ解決され、私たちの生活がより便利になっていくことが予想されます。一方で、福島第一原発の事故処理、エネルギー問題、地球温暖化、少子高齢化など、まだまだ未解決の課題も残っています。

そこで、年頭ですから 2020 年の東京オリンピックの開催時期にはどのような進展があるのか勝手に想像してみました。

日本は少子高齢化における課題解決の一つとしてロボットと共存していく先進国家となり、世界の見本となるものと私は予想しています。重たい荷物を持ち上げたり、被介護者を車いすに寄せたりする時の負担を軽減する多種多様のパワードスーツが普及するものと思います。また、東京オリンピックでは自動運転車を走行させる計画が進められているとも言われています。その頃には準天頂衛星が 4 機体

森 隆 広 (もり たかひろ)

技術士(建設/総合技術監理部門)

理事・
北海道本部 副本部長



制となっており、精度の高い GPS 機能を活用して、災害現場など危険な現場での探索を行う UAV やロボット、復旧工事・建設工事を行う無人のリモコン建設機械なども当たり前のように使われているでしょう。IoT(モノのインターネット化)が進み遠隔操作や、あるいは家電の不具合をメーカーとか家電量販店が遠隔診断するサービスが一般的になっているでしょう。

また、人と人とのつながり、コミュニケーションは人間の普遍的な欲望であることから、LINE や facebook 等の SNS ツールは益々多様化し、変化して普及していくでしょう。その一方で SNS などの 2 次元ではなく、3 次元(リアル)での人との触れ合いの重要性が一層高まるものと予想されます。つまり、仕事仲間、趣味やサークル仲間、地域コミュニティなどでのリアルな関わり合いが今後より重要になってくると思います。

技術士としての研鑽は様々な業務の経験や学習を通じて行われますが、その時に最も基本的で大事なものはコミュニケーションです。技術士となってからの成長を支える仕組みの一つとして日本技術士会北海道本部では様々な委員会等の活動を行っており、会員相互のコミュニケーションの場を提供しております。その本部も今年が創立 50 周年の記念の年となっており、6 月 8 日には記念事業を予定しております。

今年も多くの技術士の方が当本部に加入し、コミュニケーションの場に参加して継続研鑽して頂くと共に親交を深めて頂くことを願っております。